

奈良市市民参画及び協働によるまちづくり推進計画の見直し 概要（案）

主な背景と課題

- ・地域の課題や市民ニーズが多様化する一方、行政の力だけでこれらを解決することが困難になってきている。
- ・市民公益活動団体の構成員の高齢化が進むとともに、**新たな人材の確保が必要**になっている。
- ・少子高齢化の進行、ライフスタイルの多様化等により、自治会加入率は年々低下し、**地域コミュニティの帰属意識の希薄化**が進んでいる。
- ・住民のつながりが弱い**地域コミュニティ**では、様々な課題・ニーズに対応できなくなっている。
- ・ボランティアの潜在的なニーズを発掘することが必要になってきている。



第3次推進計画の施策の方向性

計画期間：令和4～8年度の5年間
(第5次総合計画後期基本計画との整合性を図る)

(1) 市民参画及び協働の推進

審議会などへの市民参画の推進、推進計画に基づく総合的・計画的推進、地域ミーティングの開催、職員の意識改革・人材育成

(2) ボランティア・NPO活動の活性化

積極的な情報提供、活動の主体となる人材の育成、協働型社会に向けた意識づくり・環境づくり、ボランティア活動の拠点となる施設の運営、ボランティアポイント事業の活用、多様化するボランティアのニーズを把握し、ボランティアをコーディネートしていくことにより、ボランティアをしてほしい人としてほしい人をマッチングする仕組みを構築、地域社会にどのような専門性を持った人がいるかを発掘し、多様な人材を確保、ボランティアの担い手不足の解決策として、市とボランティア団体が協働して講座を開催

(3) 地域活動の推進（自治協議会）

住民の地域コミュニティへの帰属意識の向上、拠点となる施設（地域ふれあい会館等）の整備や既存施設の有効活用、各主体が協力連携できる新しい仕組みとして、地域自治組織設立に向けた支援、より効果的な地域づくりを進めるため多様な主体が協働・連携し、住民自治の推進を図る